

学力向上(成績アップ、偏差値アップ)のためには

「勉強の仕方」を身に付けること

効果の上がる「勉強の仕方」とは

開倫塾

林 明夫

Q 学力向上(成績アップ)のためには「勉強の仕方」を身に付けることとは、どういう意味ですか。

A (林明夫。以下省略) 例えば、一つの楽器を演奏したいと思ったら、まずはその楽器の演奏の仕方を選び、少しずつでも身に付け、基本からコツコツと練習を積み重ねることが大切です。

一つのスポーツをしたい場合も同じですね。華道や茶道、書道、そろばんなど日本古来の習い事や、デザインや絵画、彫刻など芸術活動も全く同じです。一つ一つに、その分野特有の勉強の仕方、取り組みの仕方、習い方、身に付け方があります。そこで、まずは、その学び方・習い方を知り、少しずつ身に付けながらその分野に挑戦することが肝要(かんよう)です。

学力向上、つまり学校の成績や偏差値を大幅に上げるときも全く同じです。勉強の仕方を知り、それを少しずつでも身に付けると、学力つまり学校の成績や模擬試験の偏差値は確実に上昇します。時間をかけ熱心に取り組めば、時間をかけるほど、また、熱心に取り組むほど学力は大幅に向上します。驚くほど向上します。

Q どのような「勉強の仕方」をしたらよいのですか。早く教えて下さい。

A 開倫塾は、開塾つまり塾を創業して、この秋で丸 31 年経ちました。31 年の経験を踏まえて、学習を 3 つの段階、つまり 「理解」 「定着」 「応用」の段階に分けました。それぞれの段階にふさわしい「勉強の仕方」がありますので、それを塾生の皆様に一日も早く身に付けてもらいたいと希望しています。

Q それらの一つ一つを、簡単に、わかりやすく説明して下さい。

A (1)最初の段階の「理解」とは何か。学校や開倫塾などの先生の「授業」を受けて、「ああ、このことはこういうことだったのか」とよく分(わ)かる、納得する、腑に落ちることを開倫塾では「理解」と言います。

「授業で理解」するときには大事なことは何か。授業中は手を机の上に置き、先生の目を見つめて真剣にお話を聴くこと、必要なことはすべてノートにメモを取ること。このように、授業に積極的に

参加することです。

授業中は「欠席」「遅刻」「早退」「忘れ物」「私語(おしゃべり)」「居眠り」「携帯電話」などをしないことです。ボーッとしたり他のことを考えたりしないこと。これらはすべて「授業での理解」の妨げになりますので、してはなりません。

(2)「理解」は、教科書や参考書などの教材を自分で勉強することでもできます。

教科書などの教材を自分で勉強するときの大切な「勉強の仕方」とは何か。「ノート」と「辞書」、その科目の「学年別参考書」を必ず用意。大切なことはノートを取る。また、よくわからないことばが出てきたらその意味を辞書や学年別参考書で調べる。調べたことはすべてノートにメモしておくことです。特に、辞書で調べノートにメモをした「ことばの意味」は、何回も何回も読み返して全部覚えてしまいましょうね。

教材を一人で勉強するときには、授業で先生のお話を聴くような姿勢で、教材を、一語一語できるだけゆっくりとていねいに、「ああ、これはこういうことなのか」と、一語一語、「理解」していく。このような「勉強の仕方」が大事です。

Q 第2段階の「定着」とは何ですか。「定着」の段階ではどのような「勉強の仕方」をしたらよいのですか。

A 第1段階の「理解」で、折角(せっかく)「うんなるほど」と「よく分かった」ことも、時間がたつと忘れてしまうことが多いようです。そこで、学習の第2段階として「定着」、つまり一度「理解」したことを正確に身に付けることが大切となってきます。「定着」とは、「理解」したことを「正確に身に付ける」ことを意味します。

この「身に付けること」、「定着」は次の3つに分けられます。

(1)「定着」の第1は、一度「理解」したことが、何も見ないで正確にスラスラと口をついて言えること。

「暗誦(あんしょう)」できることです。

そのために最も役に立つのが、教材や授業中に取ったノートを「大きな声を出して、何回も何十回もゆっくり読む練習」をすること、つまり「音読練習」です。1つ1つの科目にふさわしい「音読練習」の仕方は自分でよく考え、工夫して下さいね。

例えば、英語はCDを活用して、よく「理解」したところまで、毎日、毎日「音読練習」をすることです。英語や国語、社会はもちろんのこと、理科や数学、実技4科も「音読練習」を大きな声でゆっくりと何十回も何百回もしましょう。「理解」したことがスミからスミまで正確に「定着」するので、これだけで成績は大幅に上昇します。今までに、「音読練習」を余りしたことのなかった科目ほど成績は飛躍的に向上します。

(2)「定着」の第2は、「音読練習」をしてスラスラと言えるようになった内容を、教科書の書体(楷書、かいしょ)で正確に書けるようにすることです。そのために一番よい方法は、「書き取り練習」です。全

教科、手が痛くなるまで「書き取り練習」を繰り返しましょう。

書き取り練習をするときは、書き順にも気を付けましょう。正しい書き順を身に付けて下さいね。また、美しい文字で書くことも心掛けて下さい。文字の美しさは品性のあらわれでもあります。

(3)「定着」の第3は、一度やった「計算」や「問題」をもう一回やり直してみて、なぜそのような答えになるのかが「うなるほど」と「よく分かった」つまり「理解」できたものについて、「計算」や「問題」を見た瞬間に条件反射で「パッ、パッ、パッ」と正しい答えが出るまでにすること、そうなるまで同じ「計算」や「問題」を何回も何回もやり返すことです。これを「計算・問題練習」と開倫塾では呼んでいます。

なぜそのような答えになるのかがよくわからない計算や問題は、もう一度ゆっくりやり直して下さいね。どうしてもわからなかったら、先生に質問して下さいね。

(4)このように、一度「理解」した内容についての「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を、「定着のための三大練習」と開倫塾では名付けました。

Q 第3段階の「応用」とは何ですか。

A 「理解」「定着」したことを活用することを、「応用」と言います。「応用」には、「学校の定期テストで100点を取る」と「自分の進学したい学校に合格できるだけの偏差値を確保すること」、つまり「学力向上の面での応用」と、「社会に出て役立つ面での応用」の2つがあります。

(1)定期テストで100点を取ったり、偏差値を大幅にアップさせるための「勉強の仕方」とは何か。過去に出題された5年以上の問題を解き、できなかった問題についてなぜ間違えたのか「誤答分析」を一問一問詳細に行う。この誤答分析をしながら、同じ問題を6回以上やり返すことが一番効果的です。

(2)社会に出て役立つために一番大切なことは、学校の教科書や資料集、参考書、ノートを卒業後も絶対に処分しない・捨てないことです。一定の場所に保存して、折に触れて取り出して読み返すと、いつでもアツという間に学校時代のことが思い出され、学力が維持されます。学校時代の勉強が本当に役立つのは、社会に出てからです。にもかかわらず、教科書などが手元にないのでは、もう一度勉強し直したくてもなかなかできません。学校の教科書や資料集は一生の宝物です。小学校、中学校の教科書も役に立ちますが、高校の教科書、参考書、資料集、ノートは更に役立ちます。絶対に捨てないで下さいね。

Q 最後に一言どうぞ。

A (1)以上をまとめて、「学習の3段階理論」と言います。

(2)開倫塾の塾生は一日も木8 一理ま問の応の下さう梅1 _ a p V P 5 譜 _ R